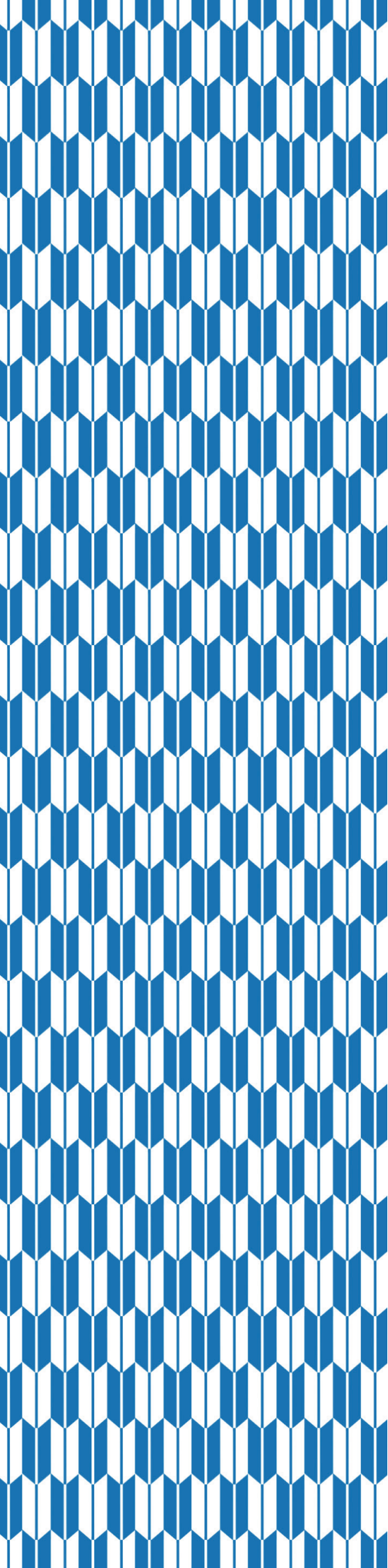


ルーツ
ノ
シンボル



人生のルーツを構成する「学校」のシンボルを紹介しています。似ているけれど微妙な違いがあったり、斬新な印象のものがあったりと、シンボルの意味に様々な思いが込められています。中には、学校がある地域の様子が見えてくるものも。ぜひ見比べながら楽しんでみてください。

<本項について>

- ・この項目の現存する甲府市立の小学校および中学校、専門学校につきましては、甲府市教育委員会様ご協力の元、シンボル・画像（校章・ロゴマーク等）を掲載しております。
- ・シンボル・画像等は、各学校のご協力によりお借りし、掲載の許可をいただき掲載しております。
- ・許可の関係から、一部ご紹介できていない学校もあります。ご了承ください。
- ・本書内に掲載されているシンボル・画像・イラスト・文章・データ等の無断転載および無断転用をかたく禁じます。
- ・シンボルおよび画像の著作権・所有権・商標登録における権利等は、所有者（または貸出主等）に帰属します。
- ・上記、著作権等の権利やその他本書に関するご不明な点におかれましては、コウフシンボル 500 制作委員会（メールアドレス：kofulifelab+ks500@gmail.com）へご連絡ください。



甲府市立新紺屋小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

武田1丁目3-34

甲府市北東地区に位置する小学校。校章は、甲府市章をかたどったデザインとなっている

校章のデザインは、甲府市章の外枠である菱形を「甲」の象形文字の中に配置し菱形の中央に「新紺屋」と記した明瞭なデザインとなっている。

明治6年に創立された「本立館」を前身としており、創立146年(2019年こうふ開府500年時点)を迎える市内でも歴史のある学校の一つである。

かつて校門に建っていた門柱は格調高いデザインであり、平成17年3月に新しい校門が設置された後も校庭の片隅に置かれ、学校の歴史を今に伝えている。

「新紺屋」の名は、旧町名の新紺屋町から。以前は紺屋職人が当地付近に居住していたことに由来する。

HA



甲府市立湯田小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

湯田1丁目8-1

甲府市南地区に位置する小学校。校章は、甲府市章をかたどったデザインとなっている

甲府市章をの「甲」の象形文字を大きくしたようなデザインの中に、「湯田」と記した明瞭なデザインの校章。

遠光寺(伊勢二丁目)内に明治6年に創設された「遠光寺学校」を前身としており、創立146年(2019年こうふ開府500年時点)を迎える伝統校の一つである。

甲府空襲では、湯田地区は市内の中でも特に甚大な被害を受け、湯田小学校も校舎・校具等を一切消失した。その後の市民の弛まぬ努力により、地域は住宅地として復興し、全校生徒2,000名を超えるマンモス校となった時期もあった。

「湯田」の名は、甲府城内の追手門前に湯の湧いていた箇所があり、そこに住んでいた町人が当地区に移住したことに由来する。

校歌のフレーズには「ヒバリ」が登場する。それをモチーフにしたヒバリが学校のキャラクターとなっており、他校にはない取り組みが行われている。

HA



甲府市立伊勢小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

伊勢2丁目16-1

甲府市南地区に位置する小学校。校章は、甲府市章をかたどったデザインとなっている

甲府市章をベースに「甲」の象形文字である亀の手足をのびのびと大きく四方に広げるようなデザインの中に、伊勢の「伊」が明快に記された校章。

伊勢小学校は、大正時代に南地区が急速に発展したことにより、当時近隣に学校の無かった伊勢地区住民からの学校設置要望にこたえ、大正14年(西暦1925年)に設立された。2019年で創立から94年を迎える。

「全国花いっぱいコンクール」優秀賞の受賞歴があり、また、ヒマワリを「校花」として定めるなど、園芸教育に力を入れている。

「伊勢」の名は、伊勢神宮の御旅所(おたびしょ。神が巡幸の際に宿泊する場所)に由来する。

校花はヒマワリ。「子どもたちが将来をめざしてこの花のように、協力し合って明るくたくましい子どもになることを願って本校のシンボルの花とした。」とのこと。

HA



甲府市立朝日小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

塩部1丁目4-1

甲府市北地区に位置する小学校。校章は、甲府市章をかたどったデザインとなっている

校章のデザインは、甲府市章をベースに作成されたデザインとなっており、創立50周年記念式典の「お祝いのことば」のなかで、「朝日輝く、輝かしい日の出のマーク」と触れられており、「甲」の象形文字からの放射状に広がる線は輝く太陽(朝日)を表しているとみられる。また、「甲」の象形の中に、「学」の旧字体で「學」と記されている。

朝日小学校は、大正時代に当地域周辺で人口が増加したことにより、大正14年(西暦1925年)に「春日」「穴切」「新紺屋」「千塚」小学校から分離新設され、2019年時点で創立94年を迎える。無印良品の商品デザインで著名である、工業デザイナーの深澤直人氏は朝日小学校の出身。「NHK課外授業 ようこそ先輩」では、同氏が朝日小の生徒に対し、課外授業を行った様子が放映された。

グラウンドの相川沿いには立つ樹齢100年以上の大ケヤキがある。校舎が何度建て替わっても大ケヤキだけは変わらずに、今日も暖かく生徒たちを見守っている。

HA



甲府市立里垣小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

善光寺2丁目7-1

甲府市東地区に位置する小学校。校章は、花菱に十字を重ねたようなデザインとなっている

花菱に十字が重なったような特徴的なデザインの校章。「里垣」と記されており、その文字に沿うように十字線が引かれている。校歌の一番に「春待草の萌え出でて」とのフレーズがあり、花菱だけでなく春待草(スノードロップ)の花弁の十字型に似せたのであろうか。校章の由来は不明となっている。

校地内にはブドウ棚があり、生徒は授業の一環としてブドウの栽培を行い、ブドウを使った加工食品づくりについても学んでいる。

「里垣(さとがき)」の名は、明治8年(西暦1875年)に酒折村(さ)、東光寺村(と)板垣村(がき)が合併し、「里垣村」となったことによる。現在、地名として「里垣」の名は存在していない。

学校の近くには、市内屈指の名刹「甲斐善光寺」「東光寺」が存在し、山あいの風光明媚な土地柄とあわせて、落ち着いた雰囲気の中で生徒たちは勉学に励んでいる。

HA



甲府市立相川小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

古府中町1501

甲府市北東地区に位置する小学校。校章は、丸みを帯びた独特なデザインとなっている

校章のデザインは、クローバーに似た形状のフレームの中心に武田菱が配置され「相川」と記されている。

相川小学校の学区の北側、上積翠寺町には甲斐の名将・武田信玄公の生地地である積翠寺が存在し、シンボルとして武田菱は外せなかったのであろう。音楽活動、特に合唱活動に力を入れており、合唱部はNHK全国学校合唱コンクールでの金賞をはじめ、各大会において幾度も入賞するなど、輝かしい実績を有している。

「相川」の名は、昭和12年に甲府市に合併される前の「相川村」から。その由来となった学校の西側を流れる相川は、甲府市の中でもホテルの有数の生息地として知られ、毎年6月頃となると、多くの人がホテルの観賞のためにこの地を訪れる。

校庭の南側の敷地には、「峯本古八幡神社」が存在する。当社はかつて甲斐国の総社であり、甲斐国民から崇敬されていた大社であった。

HA



甲府市立国母小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

国母4丁目1-10

甲府市南西地区に位置する小学校。校章は、正八角形の独特なデザインとなっている

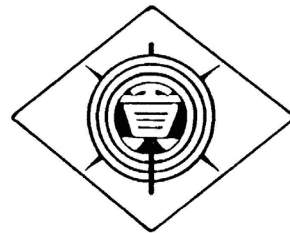
「『金剛石(ダイヤモンド)も磨かなければ美しい宝石として光を放つことはできない』という意味の昭憲皇太后の詠んだお歌の心を心として現わし、人間も学問を修めなければ立派な人になることはできない。と学問の大切さを説いているものである。」(国母小学校八十周年記念誌より)から、生徒への思いをダイヤモンドの形状に込め、「国母」と中心に記したデザインの校章となっている。

国母小学校は、慈光寺(高畑三丁目)内に「豊住学校(豊住はかつての村名)」として明治14年(西暦1881年)に創設された、2019年に創立138年を迎える小学校である。

「国母」の名は、清和天皇(国)の母・染殿后(そめどののきさき)がこの地の統治を領したことに由来する。

現校舎の北東1kmの地にある慈光寺には、「国母小学校発祥之地」の石碑が残り、歴史を今に伝えている。

HA



甲府市立貢川小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

貢川本町8-1

甲府市南西部に位置する小学校。校章は、甲府市章をかたどったデザインとなっている

甲府市章をベースに武田菱の内側の亀甲模様の中に「貢」と記され、その周囲を三本の帯が巡っていることで三本川の「川」の字をモチーフにし、「貢川」と表したようにみえる校章。

貢川小学校は、光雲寺(宝二丁目)の「飯田学校」と善応寺(甲斐市万才)の「万歳学校」より派生し、明治11年に「貢川学校」として創設された、2019年に創立141年を迎える小学校である。

もともとは名の通り貢川沿いの前田橋(富竹二丁目)東側に所在していたが、昭和41年に現在の場所へ移設された。古くから地域と連携した教育活動に力を入れており、その名も「貢川教育」として名が通っている。

甲府市の小学校は比較的落ち着いた色彩の校舎が多いが、校舎は鮮やかな暖色で彩られている。この鮮やかな彩りの校舎の中で元気に明るく学んでほしい、と生徒への願いを込めたのだろうか。

HA



甲府市立千塚小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

千塚1丁目2-16

甲府市北西部に位置する小学校。校章は、甲府市章と似たデザインとなっている

校章は、花菱の中に「千塚」と記されている。明治6年(西暦1873年)に称念寺(千塚三丁目)に「千塚学校」として創設された、創立146年(2019年こうふ開府500年時点)を迎える小学校である。

「千塚」の名は、昭和17年に甲府市へ合併された「千塚村」から命名されたもの。当地は名の通り古墳が多く、隣接する山宮地区と古墳群をなしている。卒業生には、平成26年に解散した「島唄」「風になりたい」で有名なロックバンド「THE BOOM」のボーカル宮沢和史氏、シドニーオリンピックに競泳選手として卒業した萩原智子氏などがおり、創立記念誌には両者ともお祝いのメッセージを寄せている。

学区の中央地域に今も残る山梨県指定史跡「加牟那塚古墳」は、近隣の万寿森古墳、穴塚古墳とともに、地域のシンボルとして住民に愛されている。

HA



甲府市立池田小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

長松寺町7-1

甲府市の西部に位置する小学校。校庭からは南に富士山、西は南アルプスの山々を見ることができる

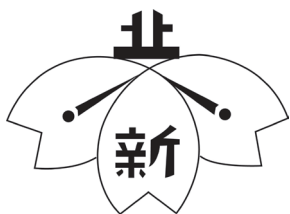
平成31年度は全校児童数466名、通常の学級18学級、特別支援学級4学級。

特色ある教育活動として、校区内ある県立盲学校や県立甲府支援学校との交流及び共同学習を行っており、障がいのある友達に対する思い遣りの心を育てている。

1年生から6年生までが少人数ごとに振り分けられて共同で作業を行う「たわり活動」があり、11月の「池なか集会」では6年生を中心としてそれぞれの班が展示やお化け屋敷などの個性的な企画をおこなう行事がある。校舎や体育館も数年前に新建築され、子どもが伸び伸びと活動のできる環境が整っている。

校庭には石の山があり、業間休みになると子どもたちが石の滑り台などで遊ぶ姿が見られる。また、相撲場があるのも池田小学校ならではの。

AM



甲府市立北新小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

北新1丁目5-1

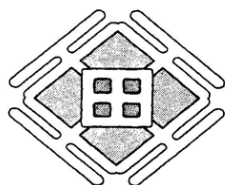
甲府市中央部に位置する小学校。異年齢集団による自主的活動を推進し、人を思い遣り、よりよい人間関係を形成できる力の育成に努める

昭和28年4月に開校、令和元年で67年目を迎える。平成24年6月に2年余りかけた新築工事が終了し、校舎や体育館・給食棟・野外広場・プール・校庭など学校の施設が全て新しくなった。

特色ある教育活動として、児童会活動と人間関係づくり、花づくり、音楽吹奏楽活動、学力向上の取組にも力を入れている。現在は「北新モデル」(甲府スタイル)の授業スタイルを継続しながら、2020年度から全面実施される「外国語・外国語活動」に向けた研究に取り組んでいる。教育活動全体においては「みんな輝いて」を共通テーマとして取り組んでいる。

「山梨県小学校バンドフェスティバル」に毎年参加している吹奏楽部。OB、OG、地域の方々に加え、金川の森ブラスアンサンブルと甲府一高吹奏楽部なども合同イベントを開催。

YT



甲府市立千代田小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

下帯那町3039

甲府市北部に位置する小学校。校章は、斬新な枠となっているがよく見ると武田菱が基調となっている

校章は、「ちよだ」の読みからデザインされたものだろうか、「ちよ」を「千(ち)」「四(よ)」とし、「千」の字を武田菱となるよう合体させ、その図形の中に「田」の字を記し、「千代田」としたのではないかと想像が膨らむ。

「千代田」の名は、昭和29年に甲府市に合併された「千代田村」から。村名の由来は「帯那山地の片山にそびえる巨岩が鶴の姿に似ており、「鶴は千年(千代)」になぞらえた」ことからきているという。

千代田小学校は、児童減少対策として甲府市全域から生徒を受け入れ、小規模校ならではのきめ細やかな教育を行うなど、特色ある取り組みを行っている。

甲府市で最も北に位置し、学区は南北約30kmともなっている。平成百景で2位となった名勝・昇仙峡にもほど近く、緑あふれる風光明媚な環境の中で生徒は学んでいる。

HA



甲府市立甲運小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

川田町65-2

甲府市東部に位置する小学校。校章は、ブドウをかたどった独特なデザインとなっている

校章は、甲運地域の特産品であるブドウがモチーフとされ、ツル、葉、果実をフレームとし、「甲運」と中心に記された、地域の特徴が明瞭に表されたデザインとなっている。最上部のツルが重なる部分を菱形にしたことで、武田菱をも連想させるデザインとしたか。

「甲運」の名は、昭和29年に甲府市に合併された「甲運村」から。村名の由来は、かつてこの地が青梅街道などに沿う交通の要衝であったことから、「此橋や運輸を利し、国益を開くの甲たり」として、交通の要衝としてこの地が発展するよう希望を込めて命名されたとされている。

甲府市立甲運第一保育所が校舎の東側に隣接し、生徒は頼れるお兄さん・お姉さんとして園児と関わっている。

学校の周辺には甲運地区の特産品であるブドウ畑が広がる。春から初夏にかけて、この地区一帯はブドウの葉で繁り、一面を緑の絨毯で敷き詰めたような景観となる。

HA



甲府市立玉諸小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

上阿原町491

甲府市東部に位置する小学校。校章は上部に甲府市章・武田菱を押し、稲穂をかたどった独特なデザインとなっている

校章は、制定当時(昭和7年)に当地域が「山梨県下の五大農村」と呼ばれており、なかでも米の生産が盛んであったことから、稲穂をフレームとし「玉諸」と中心に記されるデザインとされたか。上部に甲府市章が配置され、下部は稲がリボンのように結ばれているのも特徴的である。

玉諸小学校は、明治6年に高橋寺(西高橋町)に「高橋学校」として創設され、2019年に創立146年を迎える。

「玉諸」の名は、昭和29年に甲府市に合併された「玉諸村」に所在する玉諸神社から。「玉諸」とは、『玉』は魂を意味し、『諸(室)』は山を意味することから、国の御霊の住まう霊山を指す。」とされている。

白色と濃い青緑色でセパレートされた校舎は独特なたたずまいをしており、どこかノスタルジックに感じさせる雰囲気を出している。

HA



甲府市立山城小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

上今井町474-2

甲府市南東部に位置する小学校。校章は、甲府市章・武田菱をベースにしたデザインとなっている

校章のデザインは「山」を篆書風に「山」と「人」に分け、「山」を甲府市章の菱形に合わせ、その菱形の中に「城」を記してある信玄公の名言「人は城、人は石垣・・・」を引用したのであろうか。

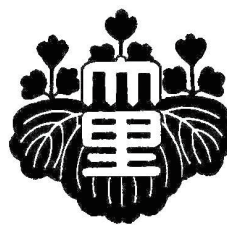
山城小学校は、明治6年に開設された「今井学校」「小瀬学校」を合わせて創設された、2019年に創立146年を迎える小学校である。

周辺地域の宅地開発により生徒数は1,000名に迫り、甲府市内はもちろん山梨県内で一番のマンモス校となっている。

「山城」の名は、昭和29年に甲府市へ合併された「山城村」から。「山城」の名は、5村が合併してできた村であることから、畿内5か国(山城・大和・河内・和泉・摂津)に沿って名付けられたとされる(西山梨郡誌)。

全校生徒数が多く、最大6クラスを有する学年も。校庭が手狭になったことから、運動会を小瀬スポーツ公園で開催した時期もあったが、近年ついに校庭が拡張された。

HA



甲府市立大里小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

大里町3785-2

甲府市南部に位置する小学校。校章は、家紋のような独特のデザインとなっている

校章のデザインは、「青桐の香に生いたる」と校歌にあることから、アオギリをモチーフとしたか。なお、校章の桐のマークは「五三の桐」といわれる桐紋であり、日本国政府旗の「五七の桐」の桐紋に似た形態となっている。

大里小学校は元々、二日市場村(大里町)の東光寺を仮校舎とし、「厚生館」として明治6年に創設され、2019年に創立146年を迎える。

甲府市の郊外化により、昭和末期にかけ南部地域の人口が激増したことから、市内有数のマンモス校になった。このことから近隣の国母小学校と共に学区を再編し、平成元年に新しく創立された大里小学校へ一部の生徒は転校していった。

学区の西部には国母工業団地が所在し、若い世代が多く居住していることから、大里小学校の学区は甲府市の中でも活気のある地域となっている。

HA



甲府市立東小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

朝気1丁目14-1

甲府市東部に位置する小学校。校章は、他校にはない幾何学模様の独特なデザインとなっている

校章のデザインは、山梨県章の形に類似している。このことから、山梨県章のデザインを模してデザインを作成したかのように思われるが、校章の制定は昭和33年10月、山梨県章の告示が昭和41年10月であることから、県章がこの校章を模して作られた可能性もあるように感じる、真相は謎である。菱形の内部の模様は、「東小」の字を円状に変形させたものであろう。

東小学校は、校舎の最上階にプラネタリウム設備があるという、公立小学校として極めて珍しい特徴を有する。

なお、読売ジャイアンツのV9時代を支え、その後監督を務めた往年の名投手・堀内恒夫氏は東小学校の出身であり、創立50周年式典において講演も行っている。

東小学校の最大の特徴ともいえるプラネタリウム設備。秋にはPTA行事として「星を観る会」が開催されており、毎年多くの参加者で賑わっている。

HA



甲府市立羽黒小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

羽黒町527

甲府市北西部に位置する小学校。校章は、校名を模したであろうデザインとなっている

校章は、羽黒の「羽」をモチーフに、両翼の羽を左右に伸ばしたデザインとなっている。上下に伸びる丸みを帯びた突起は花菱の一部のようにも見える。下記にのべるとおり羽黒小学校は千塚小学校から分離独立した小学校であることから、千塚小学校の校章をモチーフにデザインされた可能性も考えられる。

羽黒小学校は、近隣の千塚小学校の児童数の増加により分離独立した経緯を有し、昭和48年に創設され2019年に創立46年を迎えた小学校である。

「羽黒」の名は、「羽」は土を意味する「埴(はに)」を意味し、この地域の土壌が黒いこと(=はにくろ)に由来するとのこと(甲斐国志より)。

学区北部にある羽黒山(天狗山・荒木山)の頂上には、「おてんぐさん古墳」と呼ばれる直径30m・高さ約6mの県内最大の積石塚古墳が存在する。

HA



甲府市立石田小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

上石田3丁目6-31

甲府市南西部に位置する小学校。校章は、かなり甲府市章に近いデザインとなっている

校章は、甲府市章をベースに「甲」の象形文字の中に、「石田」と記された明瞭なデザインとなっている。

石田小学校は、昭和中期に隣接する貢川地区の児童数が増加したことにより、昭和52年に創設され2019年に創立42年を迎える小学校である。

「石田」の名は、所在する町名からとったもの。石田地区は、明治天皇が即位した際に行われた皇室行事「大嘗祭(だいじょうさい)」に使われる稲を育てる「悠紀田(ゆきでん)」が存在した歴史を持ち、住民はその歴史を誇りに持っている。

余談ではあるが、下石田2丁目は存在するが、下石田1丁目はなぜか存在しない。

学校の南側に位置する南西第一児童公園には、かつてこの地が悠紀田であった誉れを現在に伝える巨大なオベリスクが立派にそびえている。

HA



甲府市立新田小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

新田町12-28

甲府市西部に位置する小学校。校章は、甲府市章をかたどったデザインとなっている

校章のデザイン作成についての記録には、「校章に託した願い」として、「中心から四方に広がる光の線は、それぞれの目標に向かって生々発展する姿を願った」「『市章の菱型と亀甲』の基本形に、自己実現をめざす甲府市のよい子の姿を象徴とした」と記されている(昭和57年度学校要覧より)。

新田小学校は、昭和中期に隣接する池田地区の児童数が増加したことにより、昭和57年に創設された小学校である。明治時代に創設された小学校の多い甲府市においては比較的新しい部類に入る。

「新田」の名は所在する町名から。金竹地区のうち新田開発をされた地域であり、かつて「金竹新田」と呼ばれたことに由来する。

学校のすぐ南を流下する貢川では、春には川沿いに植えられたヒガンザクラやソメイヨシノが美しく咲き乱れ、さらにライトアップされる区間もあることから、毎年多くの人がこの地を訪れる。

HA



甲府市立大國小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

後屋町150

甲府市南部に位置する小学校。校章は、甲府市章と国の字が融合したデザインとなっている

校章は一見、菱形の中に「大國小」と記したシンプルなものに見えるが、「甲」の象形文字の亀の甲羅と国の口が合わさり、亀の四本足が菱型のフレームまで伸びることで武田菱を模した巧妙なデザインとなっている。

大國小学校は、学区西部に国母工業団地が整備されたことによる住民数の増加により、近隣の大里地区・国母地区の児童数が増加したことから、平成元年に創設された2019年に創立30年を迎えた小学校である。なお、統合合併でなく新設校としては、甲府市の中で最も新しく創設された小学校となっている。

「大國」の名は、大里地区の「大」、国母地区の「国」から命名されている。

学校のすぐ東を流下する、甲府市を代表とする河川「荒川」の大国地区の河川敷では、市の花ナデシコが群生しており、6月中旬くらいに見頃を迎える。風が穏やかで天気の良い日は、川を鏡面に富士山が美しく映る。

HA



甲府市立舞鶴小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

丸の内2丁目35-5

甲府市中央部に位置する小学校。校章は、校名を模したであろうデザインとなっている

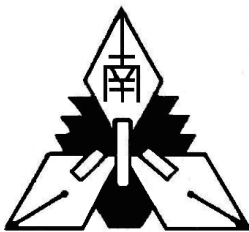
校章のデザインは公募で選定された。選定理由は、「『富士山、また頂上のM(舞鶴の頭文字)』『舞う鶴』の要素が融合し、新鮮で洗練された形となっている」「デザインが印象的で、かつ左右対称でなく独創的である」「舞う鶴の表現が柔らかく、小学校の校章としてふさわしい」ことから。

舞鶴小学校は、甲府市中央部のドーナツ化現象による相生・穴切・春日小学校の児童数減少から、三校が統合合併され旧春日小学校の跡地に創設された経緯を有する2019年に創立14年を迎えた小学校である。

「舞鶴」の名は、甲府市のシンボル「舞鶴城」から。校名は公募により277種類のうちから選定された。

校歌はロックバンド「THE BOOM」のボーカル宮沢和史氏(甲府市出身)が作成。校歌発表会には本人も出席し、全校児童と共に校歌をお披露目した。

HA



甲府市立中道南小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

下向山町4366

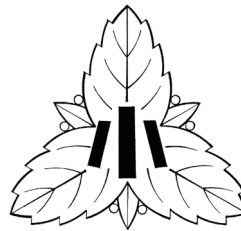
甲府市南部、旧中道町南部に位置する小学校。校章は、他の市立小学校と大きく異なったデザインとなっている

校章のデザインの由来は不明となっている。一見三菱にも見える菱の中央は万年筆のペン先をモチーフとしたような形状となっている。生徒が勉学に励むよう願いを込めたのだろうか。また、中道北小学校は「小」の字のみを記しているが、中道南小学校は「南小」と詳しく記されている。

中道南小学校は、常福寺(右左口町)内に明治6年に創設された「右左口学校」を前身としており、昭和30年に右左口村が中道町となったことにより現校名へ改称された。2019年に創立146年を迎えている。平成19年度末に上九一色地区の上九一色小学校が閉校となり中道南小学校へ併合されたことで、甲府市内で最も南に位置する小学校となり、学区は一段と広がった。

近隣には、中道往還の宿場町「右左口宿」が存在する。歌人山崎方代の生家跡など、現在も当時の宿場町の雰囲気を残す史跡となっている。

HA



甲府市立中道北小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

上曾根町3206-2

甲府市南部、旧中道町北部に位置する小学校。校章は、中道南小と同じく三角形を基調としたものとなっている

校章は、何らかの葉を三角形に配置したデザインとなっているが、中道南小と同じく由来は不明である。改称前の校名が柏小学校であったことから、柏の葉をモチーフにした可能性があるか。

中道北小学校は、龍華院(上曾根町)内に明治6年に創設された「曾根学校」を前身とし、統合により「柏小学校」と改称され、昭和30年に柏村が中道町となったことにより現校名へ改称された歴史を有する、創立146年(2019年こうふ開府500年時点)を迎える小学校である。

現在、リニア中央新幹線の建設が県内において進んでいるが、校庭の中心を軌道が走ることから、校庭のみでなく校舎ごと現在地より南の場所へ移転する予定となっている。

学校の南側にある風土記の丘農産物直売所は、甲府南ICの所在に加え国道358号が通過することあいまって、休日は多くの人出で賑わう。特に、中道地区特産のトウモロコシ「甘々娘」が人気となっている。

HA



甲府市立善誘館小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

朝気1丁目2-52

甲府市東部に位置する小学校。校章は、統合合併した2校の校章を融合させたデザインとなっている

校章のデザインについては、公募で選

定された。選定理由は、「統合する二校の校章を現代風にアレンジし融合させることで、一つの学校として開校し、再び一つ学校となる歴史的な縁と絆を感じさせる」「優しさと力強さの両方を兼ね備え、左右非対称のデザインも斬新で、新設校としてふさわしい」とのことから。

善誘館小学校は、富士川・琢美小学校の児童数の減少から二校が統合合併され、平成23年に旧琢美小学校の跡地に創設された経緯を有する、2019年に創立8年を迎えた小学校である。

「善誘館」の名は、上記のとおり2校の分離前の校名から。「先生は秩序立ててうまく人を導く」という意味の論語より名付けられた。

校歌は、「甲府市にゆかりのある音楽活動家で、快く引き受けてくれる方」に依頼することとなり、甲府市在住のシンガーソングライター伸太郎氏が作成した。

HA



旧甲府市立黒平小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

黒平町477-2

明治7年(西暦1874年)に宮本小学校の分校として開設し、昭和30年に独立し開校、昭和53年に廃校となった小学校。水晶と石楠花がデザインされている貴重な校章。黒平町在住の宮原直美さんからお借りして撮影

黒平町は昇仙峡からさらに北に標高を上がった甲府市最北端に位置する地域。廃校となっているため校章及びシンボルの記録が全く見つからなかったが卒業生の宮原さんに協力をお願いし、奇跡的に見つかった。「探しに探して、物置から出てきたとき、キラキラしてカラフルな宝石を見つけたような気分になった」と発見した時のこと話してくれた。

また、写真提供者の谷和原さんは「古い学校一覧でしか知らなかった学校を見たて、ある秋の日にてかけました。木造校舎は時を止めたようにそこにあって、子どもたちの声が聞こえるようでした。」と語ってくれた。

「訪れてからしばらくの後、校舎が解体されたことを知りました。

私は卒業生でも何でもありませんが、心に穴が空いたように思ったことを覚えています。」(文・写真共に谷和原のぞみ(ヤワラノゾミ)甲府市出身(昭和46年生))



YT



旧甲府市立宮本小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

御岳町2136

昭和59年に廃校となった小学校。校章は、地域のシンボルである桜をかたどったデザインとなっている

校章のデザインは、「中央の桜のマーク

は金桜神社にゆかりのある八重桜である。校章として古くから利用され、宮本地区各種団体のシンボルとして愛用されているところである。」(創立百周年記念誌より)とのこと。

宮本小学校は、明治6年に創設された「御岳学校」を前身とし、翌年には「宮本学校」と改称された。昭和53年に黒平小学校が閉校となり、甲府市で最も北に位置する小学校として運営されていたが、過疎化により昭和59年に閉校され、111年の歴史に幕を閉じた。

廃校後、校舎はたたくまいをそのままに、絵画・書道・演劇などの文化芸術活動に使用できる施設「御岳文芸座」として生まれ変わり、現在も活躍中である。

校舎の様子。至近にある「金桜神社」は、甲府市はもちろん、山梨県内でも名社として知られており、花見シーズンは神社のシンボル「鬱金桜」の見物に多くの観光客でにぎわう。



シンボル・画像 出典：金桜(山梨県立図書館 所蔵)

HA



旧甲府市立相生小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

相生2丁目17-1

平成16年度末に近隣の三校と統合され廃校となった小学校。校章は、花菱の色を反転させたデザインとなっている

「学校のそばの外濠に咲いていた菱の花と、武田菱にちなみ優雅にデザイン

した『花菱』を校章とした。その精神は、『武田信玄の雄と山県大弐の知』を現したものと伝えられている。」(校舎東側に残る石碑より)。

相生小学校は、信立寺(若松町)内へ明治5年に創設された「振徳館」を前身とし、明治9年に「相生学校」と改称された。甲府空襲に遭いながらも戦後いち早く運営を再開し、その後も教育機関としての責務を務めていたが、児童数減少により平成16年度末に穴切小、春日小と統合され、128年の歴史に幕を閉じた。

校舎は廃校後に改装され、甲府市役所相生仮本庁舎として活用された後、現在は甲府市健康支援センターとして利用されている。

学校の東側の南北に通ずる道路に沿って残る外周フェンスであるが、その基礎部分の石積みは、この場所に相生尋常小学校が建設された明治42年以降のものである。

HA



旧甲府市立穴切小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

宝2丁目8-19

平成16年度末に近隣の三校と統合され廃校となった小学校。校章は、甲府市章の色を反転させたようなデザインとなっている

校章は、甲府市章をベースに武田菱の内側の亀甲模様の中に「穴切」と記した明瞭なデザインとなっている。

穴切小学校は修験正宝院へ明治2年に創立された「研幾舎」を前身とし、明治6年に「飯田学校」と称し創設された。その後幾回も改称され、明治40年に「穴切尋常小学校」と、小学校東側に所在する名社「穴切大神社」にちなむ「穴切」の名が初めて表れた。

中国の小学校と友好校の締結をするなど、当時では画期的な教育を進めていたが、児童数減少により平成16年度末に相生小、春日小と統合され、131年の歴史に幕を閉じた。

校舎は現在、甲府市役所の出先機関「甲府市役所西庁舎」として今なお活躍している。

落ち着いた住宅街に位置する。校庭は、スポーツ少年団の活動や、グラウンドゴルフ会場など、地域の憩いの場として現在も親しまれている。

HA



旧甲府市立春日小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

丸の内2丁目35-5

平成16年度末に近隣の三校と統合され廃校となった小学校。校章は、花形の可愛いデザインになっている

中央に「春」と記されている校章、「春日」の春のイメージから、桜を連想させるデザインモチーフとなったのだろうか。

春日小学校は明治5年に創立された「振徳館」及び「善誘館」を前身とし、明治43年に「春日尋常小学校」として創設された。当初は春日町(中央1丁目)に存在したが、大正9年(西暦1920年)に百石町(丸の内2丁目)へ移設された。市内屈指の商業地を学区とする小学校として、かつては児童数の多い小学校であったが、住宅地の郊外化による児童数減少により平成16年度末に相生小、穴切小と統合され、94年間の歴史に幕を閉じた。

校舎は廃校後に改装され、三校を統合し創設された「舞鶴小学校」として、新たな学び舎となり活躍している。

学校北側のタコの遊具で有名な、通称「タコ公園」は、公園等が比較的少ない春日地区において、古くから地域の小学生の貴重な遊び場として今なお親しまれている。

HA



旧甲府市立上九一色小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

古関町1321

平成19年度末に統合され廃校となった小学校。校章は、富士山をかたどったデザインとなっている

校章は、富士山をベースに葉のモチーフに包まれ「上九小」と記されている。

上九一色小学校は、慈雲堂内に明治7年に創設された「古関学校」を前身とし、その後、九一色小学校、上九一色小学校と改称された。

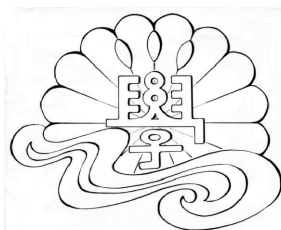
上九一色村役場が近くに位置し、村内の中心部に所在する学校であったが、過疎化による児童数の減少から中道南小学校に吸収され、133年の長い歴史に幕を閉じた。現在、校舎は甲府市役所の倉庫として活用されている。

特徴的な「上九一色」の名は、この地域一帯が木工業を生業としていたことから「工一色」と呼ばれ、当時9村だったので「九一色」とした(上九一色村誌)とされる。なお、「下九一色」は市川三郷町の地域名として残っている。

旧上九一色村役場の至近にあり、穏やかな村の中でも比較的賑やかな地区に所在する。小学校近くの「上九の湯ふれあいセンター」の温泉には、地域外からも多くの人が訪れる。



HA



旧甲府市立富士川小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

中央3丁目4-9

平成22年度末に統合され廃校となった小学校。校章は明治39年6月に制定された。菊花の中央に「学」の旧字が配されている

富士川小学校の校章は菊花で、流水の上に菊花が半ば浮かび出た形のものである。菊花は中国の伝説によると不老長寿の瑞祥の意義を持っていると言われ、学校の永遠の隆盛と、児童の健全な成長を願って考えられた。

中心部にある歴史のある小学校であったが、ドーナツ化現象等による児童数減少により、平成22年3月31日に137年の歴史に幕を閉じた。

同年4月より隣接する甲府市立琢美小学校と統合され、甲府市立善誘館小学校が新設されている。旧校舎は現在、富士川悠遊館として市民のコミュニティ活動(地域活動)の拠点施設となっている。



甲府市の小学校では珍しく制服の着用が決まっていた。2000年に放送されたNHK道徳番組「虹色定期便」は、富士川小学校を舞台としおり、出演した子役たちも制服を着ていた。

YA



旧甲府市立琢美小学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

朝気1丁目2-52

平成22年度末に統合され廃校となった小学校。校章は、甲府市章をかたどり甲の象形文字である亀がより亀らしい形となっている

校章は、甲府市章をベースに作成されたか。「甲」の象形文字の中に、琢美の「琢」と記されている。

琢美小学校は、横近習町神明社(中央1丁目)内に明治5年に創設された「善誘館」を前身とし、工町(城東1丁目)に移設後、深町(城東1丁目)に移設、さらには朝気1丁目へ移設された。

多くの生徒が巣立っていったが、中央部のドーナツ化現象による児童数の減少から、富士川小学校と合併し、139年の長い歴史に幕を閉じた。なお、統合新設された善誘館小学校は同敷地に所在する。

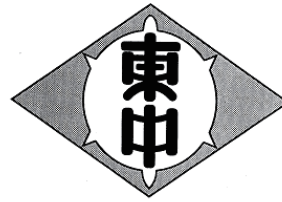
「琢美」の名は、当時学校があった工(たくみ)町の読みを瑞祥名とし、「琢(磨き出す)美」としたか。

深町時代の小学校跡地には、現在甲府市立図書館が存在する。

また、廃校となった際の敷地(現：善誘館小学校敷地)には、昔、甲府刑務所が所在していた。



HA



甲府市立東中学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

東光寺2丁目8-1

甲府市東部に位置する中学校。甲府市章をベースとし甲の象形文字の亀が大きく描かれている

過去の名称は甲府市立女子高等小学校。昭和22年に甲府市新学制実施準備協議会で、富士川、琢美、小学校地区及び朝気町を所属とする新制中学校設置を決議し、甲府市立東中学校と校名を定め西中学校、南中学校、北中学校と同時期に開校した。男女共学。学園祭は「東輝祭」という。昭和27年に里垣中学校と合併し、昭和30年に現在の地に移転。昭和34年に甲運中学校合併、昭和38年に玉諸中学校合併。平成29年に創立70周年を迎える。

著名な卒業生は、土井隆雄-宇宙飛行士、田原俊彦-アイドル歌手、俳優、タレント、宮沢正史-元プロサッカー選手。

校内には「夢きよく道はるか」と刻まれた石碑がある。これは、昭和35年に創られた校歌の中に唱われている言葉。学校の教育指標とされ、子どもたちが夢や希望をもち、未来に向かって力強く歩んでほしいという願いが込められている。

YT



甲府市立西中学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

飯田5丁目13-1

昭和12年、甲府市立男子高等小学校として創立。昭和22年に西中学校として開校した。校章は、富士山と平和の象徴鳩が大きく羽を広げている

時代を感じさせる凹型の特徴的な校舎。屋上に青雲(せいうん)鐘という鐘があり、毎日朝8時に生徒が鳴らすことになっている。毎日、何人かで担当していき卒業までに全校生徒が必ず鐘を鳴らすことができる。この作業は数少ない屋上に登れる機会でもある。

9月には青雲祭(せいうんさい)と呼ばれる学園祭があり、「全校制作」「装飾」「学級旗」部門に分かれ、それぞれ担当した部門の仕事をしながら青雲祭を楽しんでいる。会議などの関係で通常授業が5分短縮される「短縮授業」、10分短縮される「スーパー短縮授業」の日が存在し、次の日の連絡事項が通路黒板に張り出された際に「スーパー短縮」の日があると、帰りの会で喜びの声が上がるが多々ある。

朝と放課後、校門前では先生が挨拶をしている。ちなみに駐輪場では、自転車の鍵を刺したまま駐車していると昼休みに先生に没収されてしまい、放課後自分の鍵を職員室に取りに行く羽目になる。生徒は盗難に気を付ける意識を育める…はず。

AM



甲府市立南中学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

湯田2丁目21-24

南甲府駅からほど近い場所に立つ中学校。校章は甲府市章をベースとしつつも亀の甲羅が縦長で描かれており、武田菱もより正確に再現されている

戦後もなく昭和22年に創立、翌昭和23年には南中青少年赤十字団を結成し、日赤に加盟。校内にJRC委員会を設けてボランティア活動などを行っている。

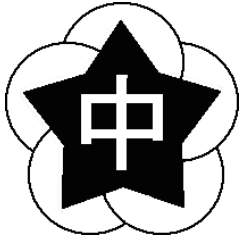
昭和26年国母中学校を合併。昭和28年に校旗が制定されている。昭和37年玉諸中学校を合併。戦後復興の中で人々が一丸となり作り上げてきたのであろう。

学園祭は「みんなみ祭」といい、表現活動の一環として、演劇や合唱、応援に取り組んでいる。

著名な卒業生は、遠藤俊英-旧大蔵省官僚、金融庁長官、堀内恒夫-元プロ野球選手・監督、現参議院議員、内藤香菜子-女子バレーボール選手。

「みんなみ祭」は2日間で開催され、1日目は文化部門で、学年劇の発表、イラスト美術部や家庭科部が作り上げた作品の展示、吹奏楽部の演奏などがある。2日目は体育部門で、クラス対抗種目などが行われる。

YT



甲府市立北中学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

大和町4丁目35

校章は、北中学校が発足してまもなく図工科担当の先生が図案化したものを数案検討して決定された

北中学校は、昭和26年に相川中学校、千塚中学校合併、昭和39年に千代田中学校合併、昭和41年に黒平中学校合併、昭和42年に宮本中学校合併と合併を繰り返してきた歴史をもつ。校章の外側は梅の花であり、梅花のように雄々しく、寒波にも負けない不屈の精神の持ち主であり、リリしく、きざんとした態度であってほしいという願いが込められている。中側は星の型で北極星を意味し、人生航路の指針になるような強く正しく、理想を求めて進む学徒であってほしいという意味を持つ。学園祭の名称は「北陽祭」。校訓は「個性豊かな民主的实践人」

卒業生である漫画家・武内直子さんの『セーラームーン』シリーズの主人公たちの学校制服は、同校の夏服がモデルであるという説がある。

YT



甲府市立南西中学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

上石田4丁目10-8

昭和35年に北東中学校と同時期に開校。いちょうをモチーフとした校章になっている

昭和35年に創立開校式を挙行、入学式を伊勢小学校の講堂で行う。相生・伊勢・国母が学区となる。開校当初、校舎が完成していないため南中学校と西中学校を借用して仮校舎として使用していた。同年9月に新校舎に移転している。平成元年、創立30周年記念式典を行うとともに、教育指針「日々に新たに」が決定された。また平成21年に創立50周年の記念式典が行われた。教育目標は「心豊かで確かな学力をもつ生徒の育成」学園祭は「いちょう祭」という。

第13期卒業生同窓会の会長を務めるのは樋口雄一甲府市長。開府500年にあたる令和元年が還暦祝賀会となった。卒業生同窓会の愛称は「いちょう会」。

YT



甲府市立北東中学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

大手2丁目4-18

昭和35年開校。武田神社から程近く、武田氏ゆかりの神社や仏閣が立ち並ぶ歴史エリアに位置する中学校

校章に使用されている葉は、校歌に出てくるセンダンの葉なのだろうか。また、学園祭を「二葉祭」と呼ぶが、この二葉も校章と関連があるのだろうか。想像が膨らむ。北東中学校では、甲府駅周辺で毎月1回早朝にゴミ拾いや草取り、側溝の清掃を20年以上続けている。平成4年から続けているこの活動は、伝統ある「おもてなし」として紹介されており、生徒会主催の自主的な活動で地域を美しくするという意識だけでなく、甲府駅を利用する方々に気持ちよく使っていただきたいという「おもてなし」の気持ちを育む機会となっている。参加は強制ではなく、あくまで掃除をしたいと思う人の自主参加。この活動を通じて自宅など身の回りをきれいにする意識も強くなったと話す生徒もあり、地域貢献の模範となる取り組みが今も続いている。

学校の基本方針に掲げられている具体的な目標の「人との関わりを重視する指導の推進と思いを育む心育成に努める」はまさに実践として毎月行われる清掃活動に反映されている。

YT



甲府市立北西中学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

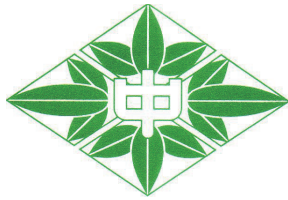
山宮町538

昭和55年開校。甲府市の木である「榎」の葉をモチーフとしたデザインとなっている

北中学校の大規模化解消に伴い昭和55年に7番目の市立中学校として開校。平成31年に創立40周年を迎えた。教育指針のスクールプランとしてグランドデザインも掲げられており、そのスローガンは「北西アクティブ・共に学び、共に育ち、共に生きる」となっている。また良き伝統として「挨拶・清掃・合唱」の3つを大切にしている。学校の教育目標は「心豊かでかしくたくましい生徒の育成」。学園祭は「清流祭」。著名な卒業生は、小林岩魚-プロサッカー選手、小林孝至-ギタリスト、中谷真一-衆議院議員、中島克仁-衆議院議員、長谷川順一-トリノパラリンピックアルペンスキー代表。

初代校長伊藤基先生の言葉の石碑には「人生は心で歩む道である」と刻まれており「豊かな心の育成」を目標に、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成に取り組んでいる。

YT



甲府市立富竹中学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

富竹4丁目5-8

昭和61年開校。武田菱に富竹の名に由来する竹の葉が配置されたデザイン

甲府市西部の人口増加に伴い、西中学校及び南西中学校の学区再編により昭和61年に新設された。

甲府市の西端に位置し、隣の甲斐市富竹新田に隣接する。

「品位と活力」のある清新な校風の樹立をめざして教育活動に取り組み、学校の教育信条は、「和と創造」。「和」はチーム学校としての力、「創造」は創意工夫と発想を願う。令和元年に創立34年目を迎える。

著名な卒業生は、柏原収史-俳優・ミュージシャン、柏原崇-俳優・ミュージシャン、ヒデ-TV番組あいのり出演者、江原騎士-競泳選手、塩川莉世-女性アイドル・転校少女歌撃団。

校舎正面の壁には模様がある。これは「波頭」を表現したもので躍動を意味しており、生徒が生き生きと活動するようという願いが込められている。

YT



甲府市立城南中学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

大里町2590-1

昭和62年創立。甲府市章をベースに「城南」の文字が刻まれ多色づかいのデザインとなっている

昭和49年に甲府市立山城中学校と玉穂村立玉穂中学校を統合して、甲府市玉穂村中学校組合立城南中学校として設立。昭和60年、玉穂村の町制施行により甲府市玉穂町中学校組合立城南中学校と改称。昭和62年より城南中学校となり現在に至る。

学校の教育目標は「知識を磨き、たくましい心と体をもった生徒の育成」。学園祭は「輝城祭」(きじょうさい)。

著名な卒業生は、横山友美佳-元バレーボール選手、堀米勇輝-サッカー選手(ヴァンフォーレ甲府)、石原大助-サッカー選手(ヴァンフォーレ甲府)。

市立甲府病院2F西奥に分校があり、病気、ケガ等で甲府病院に入院している生徒に対しての学習支援をしている。入院している生徒が治療しながら学ぶことが可能な院内学級。

YT



甲府市立上条中学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

古上条町95

甲府市で10校目の公立中学校。昭和63年に設立。校章には武田菱が用いられている。

甲府市の総合計画に基づき、良好な教育環境の中で生徒に学習してもらうことを目的として開校。学校名は地名の古上条から名付けられ上条の名称は、古代条里制の遺名で、南に中条(中町周辺)と下条(東下条、西下条)の村落がある。戦国時代には、現代の古上条町と上条新居町、国母一丁目～八丁目の一帯を郷域とする上条郷が形成されており、甲斐源氏武田氏と同系に属する上条氏が所領していたという由緒ある地名である。

教育目標は「自主・協和・創造の精神に富んだ心身ともに健康な生徒の育成」。学園祭は「麗条祭」。

著名な卒業生は、富田智美-元山梨放送(YBS女性アナウンサー)。

校訓は「自主 協和 創造」で、平成2年の卒業生によって記念碑が寄贈されている。平成29年に創立30周年を迎えた。

YT



甲府市立笛南中学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

下曽根町270

昭和40年創立。養蚕地帯の3つの中学校の統合を、桑の葉で型どり、山梨の象徴である富士山をいただき、学校の団結・協力・発展・平和を表現している

中道町立中道南中学校、中道北中学校、豊富村立豊富中学校が統合されている笛南中学校は、昭和40年に中道町と豊富村の両町村の組織する組合立中学校として創立。平成18年2月に豊富村は中央市に、同年3月に中道町は甲府市に編入合併され甲府市中央市組合立笛南中学校となる。さらに、平成22年4月に豊富地区と分離し甲府市立笛南中学校に組織変更され現在に至る。また、分校として桜木分校がある。

校章及び校旗は、公募によって44点の作品の中から入選した葉袋誠次郎氏(豊富村浅利)の図案を採用したのとなっている。学校の教育目標は「知性あふれ心豊かなたくましい生徒の育成」学園祭は「桑葉祭」。

統合に当たってその中心である校旗をつくることに鋭意努力した結果、時の知事、天野 久氏の寄贈により現在の立派な校旗が生まれたそうである。校名の執筆は、故 天野知事のもの。旗の地色となっている藍色は、知性・純真・探究・平和を意味している。

YT



山梨県立甲府第一高等学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

美咲2丁目13-44

現在の校章は昭和23年(西暦1948年)2月24日に選定された。意匠の発案者は当時の在校生である

旧制甲府中学校の校章は、桜をデザイン化したもの(この校章の起源は、明治39年の校旗制定と同時期であると考えられる。)であったが、新制高校になった際、同じバラ科の植物で「ヤマナシ」を別名に持つ「オオズミ」の葉を4方向に広げ、中心に「高」の字を置いたデザインとした。「オオズミ」の葉を十字に用いたのは、キリスト教の十字架をヒントにした構成だと言われている。

桜と同じバラ科の植物を用いている点において、旧制甲府中学校の気風を暗喩させながらも、戦後の新生日本が標榜する平和と博愛の精神を託した、伝統と理想を象徴した意匠である。

旧制甲府中学の伝統を継ぐ学校であり、さらに江戸時代に甲府城郭内に設置された鑑典館(甲府学問所)にルーツがあるなど非常に長い歴史を持つ山梨県一の伝統校である。伝統行事として10月初旬に行われる「強行遠足」が有名。



YA



山梨県立甲府東高等学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

酒折1丁目17-1

地元では「東高」(とんこう)と略称される。設置学科は普通科のみだが、内部に理数コースを設置。理数コースの通称は「東理」(とんり)

県内では、制服がかわいい高校として有名なためか女子生徒の割合が比較的多い。また、授業時間は55分+カセット方式(A・B・Cと決まった教科が変則的に入る方式)を採用しているほか、探求サブリアや自習室などの充実した学習環境が用意されている。廊下に机や椅子が置いてあり、受験シーズンに入ると受験を控えた生徒が廊下で先生から指導を受けている光景も目にするようになる。お昼になるとパンや弁当などを売りに来る業者が来るが、県内では珍しい学食がない。県内唯一の水球部及び専用プールが存在している。

毎年高校独自のオリジナルノートが生徒からのデザイン募集等により制作され校内で販売されている。また、ハローキティと東高校がコラボしたグッズ(東高校の制服を着ているキティのストラップ)が販売されており、秘かに人気がある。



AM



山梨県立甲府西高等学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

下飯田4丁目1-1

地元では「西高(にしこう)」と略称される。県下で唯一の65分授業を行う、単位制高校

明治35年、県立山梨県高等女学校として開校。甲府第一高等学校の「一高」に対し、甲府第二高等学校「二高」と呼ばれ、現在の県民文化ホールがある場所に建てられていた。昭和50年に現在地へ移転。平成14年には創立100周年記念式典を挙行了。

「県下唯一の65分授業」「単位制の多様な選択科目」などを実施、近年は国際バカロレアの認定校として新たな教育プログラムの導入を進めるなど時代に則した教育に力を入れる。

文化祭は「鳳凰祭」。著名な卒業生はアナウンサー、ファッションモデル、声優、歌人、俳優など芸能関係に加え政治家、実業家と多岐にわたっている。

学校の活動や教育理念を具体的に視覚化したビジュアルアイデンティティを展開し、ブランディングの確立を図っている。N-stageの名称で広報誌の発行やWEB発信も行う。



YT



山梨県立甲府南高等学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

中小河原町222

地元では「南高」(なんこう)と略称される。文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)指定校

昭和38年に開校。普通科と理数科がある。45分・7校時制を県下で最初に採用。また、教員による課外や学習会、外部の講師による土曜講座なども実施している。

平成16年より「科学技術・理科大好きプラン」の一環として、文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール(SSH)の指定を受け、様々な教育活動を進める。地域住民も参加できるサイエンスフロンティアフォーラム(科学講演会)、サイエンスワークショップ(自然科学系部活動)や校外研修(筑波研究学園都市や日本科学未来館等の訪問)を実施している。

著名な卒業生は、遠藤俊英-第10代金融庁長官をはじめ官僚、政治家、実業家、文化教育関係者が多く、また研究者や芸術家など幅広い。

校訓は初代校長の提唱した「開拓者精神」=Frontier Spirit。生徒一人ひとりが夢の実現に向けて努力を重ね未知の領域を切り開いていく。といった意味が込められている。



YT



山梨県立甲府城西高等学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

下飯田1丁目9-1

山梨県初の総合学科高等学校。校章以外に学校オリジナルのロゴマークを持つ

平成8年、山梨県立第一商業高等学校と山梨県立機山工業高等学校を統合し、総合学科高等学校の設置を決定。平成9年に山梨県立甲府城西高等学校として開校。特徴的な8科目は人文社会・自然科学・スポーツ健康・福祉生活科学・メカトロニクス・エレクトロニクス・ビジネス会計・情報管理。

校章は、強い生命力を持つ県木の楓の葉。生徒がそれぞれの興味や関心、進路などに応じた学習を通じて自己実現を図り、多方面に向かって発展する姿を表している。また、葉と葉の間の多角形は未来を照らす希望の光と、目標に向かってほとばしる若いエネルギーを象徴している。

校訓は「進取創造」。人格を尊重する精神を養い、自己の課題に対して自ら進んで発展的に独創的な対応ができる英知を身につけ、力強く生き抜いていく人間へ成長する願いが込められている。



YT



山梨県立甲府工業高等学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

塩部2丁目7-1

校章は、昭和23年に改定。当時の同校教師のデザインによるもので、「山梨の葉」の五葉は五科を象徴している

大正6年、甲府市工町に市営の甲府市立工芸学校として開校。昭和11年に市立甲府工業学校と改称。昭和16年には県移管となり山梨県立甲府工業学校となる。その後昭和22年の学制改革により山梨県立甲府工業高等学校となる。

設置学科として全日制課程は機械科・電気科・建築科・土木科・電子科、定時制課程は機械科・電気科・建築科、専攻課程は建築科を各々設置。これらに加えて2020年より学科が増設される予定。平成29年度には文部科学省が実施しているスーパー・プロフェッショナル・ハイスクール(SPH)事業の指定校となった。県内高校としては初となる。

山梨県内では野球の強豪校として知られ、複数のプロ野球選手を輩出している。

20年連続就職内定率100%を誇る。部活動などの課外活動も盛んで、その数は30に及ぶ。特別委員会の「応援団」はほぼ毎日、年間を通して活動しており、夕方グラウンドの横を通ると威勢のいい声と太鼓の音を聞くことができる。



YT



山梨県立中央高等学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

飯田5丁目6-23

定時制と通信制からなる。校歌は谷川俊太郎作詞。文化祭は「明窓祭」

昭和46年に開校。平成25年新校舎完成。定時制と通信制からなり、定時制は平成25年度より午前部・午後部・夜間部の三部制となった。通信制は普通科と衛生看護科(甲府看護専門学校の准看護学科に入学の生徒が対象)となっている。

定時制においては、スクールカウンセラーの配置、山梨英和大学大学院臨床心理学専攻との提携による大学院生の相談スタッフの活動、チューター制(学級担任の他に、生徒が自分で選ぶ個別担任制)の導入、ソーシャルスキルトレーニングの実施等、教育相談や生徒支援の体制を整備しキャリア教育の充実に努めている。

校内には校歌を作詞した谷川俊太郎自筆の校歌額が飾られている。ホームページには言「黒板は無限の宇宙」という言葉も綴られている。



YT



甲府市立甲府商業高等学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

上今井町300

校章の由来は、翼がヘルメスで「進歩のスピード」黄金の杖はカドケウスで「勢力」蛇は「知恵」を表し、「甲府」の文字が篆書(古書体)でデザインされている。地元では甲商または商業と略称される

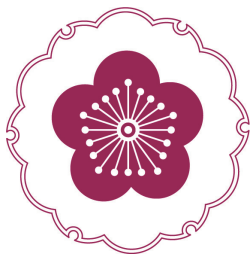
明治34年、甲府尋常高等小学校相生教場内に市立甲府商業学校として開校。翌年には新校舎のある甲府市東青沼(現在の青沼地区)へ移転。昭和15年には第二商業学校が併置され、戦中は医学専門学校として県へ移管。終戦後の昭和23年に新制商業高校となり、昭和26年には男女共学全日制高校となったことから、第二商業学校は定時制へ移行。昭和52年に現在地である甲府市南部の上今井町へ移転し、跡地である青沼地区の敷地には甲府市総合市民会館が建設された。

甲府市の市立高校で、唯一県立学校と同条件(同一日程、同一検査)で入学者選考を実施している。

スポーツ各部は県下では強豪で、特に剣道部男女・バドミントン部男女・ソフトテニス部女子はインターハイの常連である。著名な卒業生にも多くのスポーツ選手が名を連ねる。



YT



甲斐清和高等学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

青沼3丁目10-1

学校法人伊藤学園の私立高校。校章となっている雪の結晶と梅の花は、学祖・伊藤うた先生の座右の銘

「雪中梅花」とは「雪の中に咲く梅の花」からきている。冬は、雪や厳しい寒さを耐え忍び、初春には美しい花を咲かせる。苦難や試練を耐えて乗り越え、そして必ず見事に成長する」という意味を持ち、うた先生の教えを今に伝えている。また、雪の中、けなげに咲く梅の花一輪のように、苦しみの中でも強く、清く、品よくあってほしいという願いがこめられているという。

創始は、甲府市代官町の貸家にて開いた裁縫塾。明治33年(西暦1900年)、山梨裁縫女学校が開校。以降何度か改名され、大正14年(西暦1925年)より長らく校名は甲府湯田高等学校であったが平成23年より甲斐清和高等学校(かいせいこうとうがっこう)に変更。平成22年には創立110周年記念式典が開催された。

進学・総合コースの普通科(商業クラス・福祉クラス等)に加え、人間文化コースがある。全日制課に加え通信制課もあり、中学校時代に学ぶ意欲を持ちながらも学校・学級・授業になじめなかった生徒たちの「高校で学びたい」「自分の将来の夢を叶えたい」に答えている。



YT



東海大学付属甲府高等学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

金竹町1-1

甲府市にある私立高校。校章の下の羽根の形は平和の象徴「鴉」の翼を表現し、その上は躍動する「東海」の潮を表している。全国に14校ある東海大学付属高校のひとつ

昭和32年教育者の石部栄永氏により前身である山梨商業高等学校設立。その後、東洋大学と提携し東洋大学第三高等学校となるが、東洋大学の学園紛争が原因で提携を解消し、昭和49年に学園法人東海大学の傘下に入り、東海甲府高等学校として発足した。平成26年に現在の東海大学付属甲府高等学校に校名を変更。

調和のとれた文明社会を建設する「建学の精神」を理想に掲げた一貫教育を行なっている。普通科がある他、過去には衛生看護科があり、東海大学医療技術短期大学と連携して医療従事者も養成していた。

東海大学の付属高校は「高校現代文明論」という関連高校独自のカリキュラムを展開、2学期制を導入している。

校舎は甲府駅と竜王駅の中間ほどに位置し、野球部や柔道部をはじめ、部活動に盛ん。略称は東海大甲府で、甲府市内では東海と呼ばれている。



YS

山梨大学教育学部付属幼稚園・小学校・中学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

北新1丁目4-1・4-2

校章は小学校では、三枚の葉の上に花梗が三本たち、花が中央に五つ、左右に三つずつついている「五三の桐」といわれる紋章が校章として使用されている

明治9年に山梨県師範学校附属小学校が開校。昭和27年に現在の地に移転。何度か名称が変わり平成28年に大学の学部名改称により現在の名称となる。中学校ではこの紋章の中央に「中」の字が添えられたものが使用されている。また幼稚園のものはフォント及びデザインがやや柔らかく作られている。附属施設は他に幼稚園、特別支援学校がある。

また、小学校では秋に「あおぎり祭り」という祭りがあり、中学校では「桐龍祭」という学園祭がある。

幼稚園の紹介文章が印象深い。「たくさんの面白さと出会う場所、不思議と出会う場所、仲間と出会う場所、文化と出会う場所。周囲に広がる面白さと不思議の世界と対話しながら、『かけがえのない自分の物語』をつくりだしていくのです。」

YT



学校法人山梨英和学院

江戸 明治 大正 昭和 平成

本部・大学 横根町888番
中学校 愛宕町1112番地
こども園 上町1740番地

昭和初期、グリーンバンク校長時代に制定された。カナダの国樹の「楓」の葉に山梨の「Y」と英和の「E」が記されている

明治22年(西暦1889年)カナダメソジスト婦人宣教師会と甲府の青年有志が、自分の妹や娘たちに良質な教育を受けさせたいと願って設立した女学校が始まり。今では3つの幼保連携型認定こども園、女子校の中学・高等学校、そして4年制大学・大学院を持つ総合学園となり、令和元年(西暦2019年)に創立130周年を迎えた。キリスト教信仰に基づく「敬神 愛人 自修」の校訓を掲げ「人材教育」に留まらない「人格教育」を教育理念とし、国際的視野を持ち社会に貢献できる「よき世界市民」を育成することを目指している。



大学キャンパスには「楓」を始め紅葉の美しい樹木が数多く植えられ、ヴォーリス設計の瀟洒な建物が配置されている。中高は愛宕山の斜面に建つヴォーリス設計の建物が甲府市街を見下ろしている。

YS



山梨学院

江戸 明治 大正 昭和 平成

酒折2丁目4-5

幼稚園から大学及び大学院まで有する総合学園。デザインに用いられた梶の葉への想いは深い

校章は台座に用いられている「梶」は「舵(かじ)」に通じ、「方向」を示す。また古より人々は梶の葉に文字を書き、その上達を七夕の星に願った。梶は和紙の原料であり、学問は紙によって発達した。このような事象から校章のデザインが生まれた。

本学園は昭和21年に山梨実践女子高等学院として桜町に創立、昭和37年に大学が設置された。現在は広大なキャンパスに法学部、経営学部、健康栄養学部、国際リベラルアーツ学部、スポーツ科学部の5学部6学科と、2つの研究科を持つ。運営する学校法人山梨学院は、大学、幼稚園、小学校・中学校、高校、短大も有している。キャンパス内には「エフエム甲府」のスタジオもある。

校内は広々としており学園らしい雰囲気。大学のマスコットはカモシカ(山梨県獣)をモチーフにした「アルティ」&「ベッキー」。学校創立60周年(2006年)を記念して制定されたもので、各種学生スポーツの応援などに登場する。



YT

駿台甲府学園 (小学校・中学校・高等学校)



江戸 明治 大正 昭和 平成

塩部2丁目8-1

上今井町884-1 / 1279-2

私立の小中高一貫校。校章はSとKをモチーフにした学園のマークに小・中・高とそれぞれ漢字一文字が入るデザイン

校章のSは未来へと続く道、中央のグリーンは緑豊かな甲府の環境と学園

のチャレンジング・スピリット、生徒の成長の姿を表わす。Kは未来へ羽ばたく鳥の姿~世界に羽ばたく生徒の未来像を表現している。昭和31年山梨自動車工業高等学校として設立~翌年山梨工業高等学校と改称。また昭和49年に普通科併設にともなって甲府北星高等学校と改称。その後、駿台予備学校と提携して昭和55年駿台甲府学園が設立された。学校法人駿河台大学・駿台予備学校とは姉妹関係にある。

学校教育における理念は、愛情教育、チャレンジング・スピリット。著名な卒業生が多く、芸能人、アナウンサー、プロスポーツ選手、実業家等多岐にわたってを輩出している。

私立小学校・中学校・高等学校・通信制課程に加えて、県内で唯一の美術課程美術デザイン科を持つ。



YT



山梨県立ろう学校の スクールマスコット “ゆっぴー”

江戸 明治 大正 昭和 平成

山梨県山梨市大野1009

甲府市から移転。児童生徒と教員が協力し誕生した“ゆっぴー”。甲府で開校して、今は山梨市に移った山梨県内で唯一のろう学校。校訓は「己に勝つ」

“ゆっぴー”は英語の“ Young Outgoing People ”(若くて、ものおじしない社会的な人)の頭文字から名付けられた。

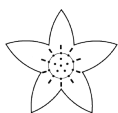
ピンクの顔は、峡東地域で採れる桃を表現。胸の「Y」は「ゆっぴー」と「山梨県立ろう学校」のイニシャル、体はスクールカラーのブルーとなっている。

“ゆっぴー”には、社会や世界で起こっていることを知り、強い脚で、困難にも負けず、一步一步、前進するという思いが込められている。

大正11年(西暦1922年)に私立山梨盲啞学校として開校し、昭和24年現在の山梨県立ろう学校となった。令和3年で創立100年目を迎える。

幼稚園から高等部まで一貫した教育が行われ、子どもたちの持つ力を最大限に引き出すとともに、社会性や思いやりの心を育む教育システムが構築されている。

当初の所在地は甲府だったが、現在は山梨市の笛吹川近くへ移転。校章は、「やまなし」の花で、花びらは薄桃色、花芯は黄色となっている。



YT



山梨県立盲学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

飯田2丁目10-2

山梨県内唯一の盲学校。校章は、はつらつと生長する葡萄を表徴し、さらにさわやかな青春の高雅、清純を表徴、その六葉鋭角は俊英なる活動と進展を意味し盲教育への進行刷新を図る意を込めて図案化したもの

大正8年(西暦1919年)私立山梨訓盲院として発足。その後、県立移管を経ながら百年近くの歴史を有し、1400名あまりの卒業生・修了生を送り出している。戦後まもなく日本で初めての、「見えない・聞こえない子どもへの「盲ろう教育」が実践されたという歴史を持っており、ヘレン・ケラーが学んだアメリカのパーキンス盲学校校長が訪れるなど、国内における「盲ろう教育」の先駆的役割を果たす。幼稚部、小学部、中学部、高等部普通科、高等部保健医療科・専攻科理療科・専攻科保健医療科がある。在籍者だけでなく外部に向けても支援を行い、現在、弱視教育相談室は「Eye愛ひとみ相談支援センター」として、見えない・見えにくい方やその関係者に広く教育相談活動を展開している。

ホームページは、テキスト版・通常カラー版・英語版と幅広くさらに、点字に関する情報なども充実している。校訓は「和顔愛語(わげんあいご)で、なごやかな顔と思いやりのある、やさしいことばを大事にする。



YT



山梨県立かえで支援学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

東光寺2丁目25-1

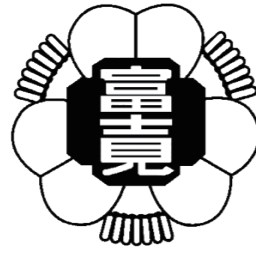
校名に由来する楓(かえで)がモチーフとなった校章。市街地域に初めて設置された小学部・中学部・高等部からなる知的障害特別支援学校。平成13年に開校した

校名である「かえで」の葉をデザイン化した校章には『新緑の季節の若々しいかえでを「イタヤかえで」によって表し、子どもたちが毎日の生活を誠実に生き、友情と親愛の心を持って協力しあい、やがて地域の中で自立し社会参加してほしいとの願いを、『かえで』から外に向かって広がる葉脈で象徴している』という想いが込められている。生徒の増加に伴い、平成21年に校舎(高等部棟)を増築し、平成24年には旧山梨園芸高校に分教室を開校。この分教室は桃花台学園の開校と共に閉じられたが、現在の高等支援学校桃花台学園の礎として重要な役割を担った。地域の特別支援教育に関係する方々に向けに相談・支援通信『FRIENDS(フレンズ)』の作成、配付なども行なっている。

「行きたい学校・行かせたい学校・連携したい学校・働きたい学校を目指して」というキャッチコピーを掲げる、それを物語るような明るい雰囲気の校舎。



YT



山梨県立富士見支援学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

富士見1丁目1-1

校章には、クローバーの三つの葉と花、富士見の文字の周りには四葉のクローバーのシルエットがデザインされている

県立中央病院に併設されている「本校」と、県立北病院に併設されている「旭分校」からなる県内唯一の病弱教育の特別支援学校。慢性疾患や心因性疾患などで加療中の小中学生を対象として、小中学校の教育課程に準じた学習補完の教育活動を行っている。「本校」は、昭和47年県立養護学校(現山梨県立甲府支援学校)の中央病院分校として開設され、昭和59年4月に県立富士見養護学校として開校、平成9年に「旭分校」が開校し、現在に至る。クローバーは幸せを象徴し、広がる三つの葉と花は病弱児教育における慈愛・健康・勉学の目標を表わし、子どもたちが病気に負けずに明るく健やかに成長することへの願いが込められている。

特別支援教育のセンター的機能も担っており、児童生徒たちが充実した学校生活を送るための支援として、児童生徒や保護者、教職員の方々のための教育相談や研修支援などを行っている。



YT



山梨県立甲府支援学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

下飯田2丁目10-3

校章は、プラタナスと富士山を組み合わせたデザインされたもの。開校時に校内道路にプラタナスの並木があり、そこから富士山を一望することができたそうである

県内に居住する肢体不自由児童生徒に、小・中・高一貫の教育を行う支援学校である。学校目標は、「ひびき合え心豊かにすこやかに」。

昭和34年、羽黒町に山梨県立あけぼの学園(児童福祉法による肢体不自由児療育施設、医療と教育併行)が発足するに伴い、甲府市教育委員会より教員2名の派遣に始まった。その後、北中学校及び北新小学校の各分教室開設を経て、昭和38年に現在の地に学校設立。12月2日を創立記念日と定めた。同敷地内には寄宿舎もある。

学校間交流として小学部は池田小学校と新田小学校、中学部は敷島中学校、高等部は甲府城西高校などと交流や共同学習を行い地域の人々とのかわりを大切にしている。

校舎外観。毎年開催される学園祭「甲養祭」の令和元年におけるテーマは、「元気!? いっぱい! 笑顔!? 最高! 甲養祭」。児童生徒一人一人が溢れんばかりのやる気を出して取り組んだ。



YT



山梨大学教育学部附属特別支援学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

天神町17-35

他山梨大学教育学部附属学校と同様「五三の桐」といわれる紋章が校章として使用されているが、ややデフォルメされわかりやすくなっている印象を受ける

昭和39年、北新小学校内に山梨大学教育学部附属小学校特殊学級を設置。昭和41年、甲府市天神町に特殊学級専用の新校舎が完成。附属小学校・中学校の特殊学級を移転。以降、統合～名称変更～高等部設置等を経て、平成28年に学部名称により「山梨大学教育学部附属特別支援学校」(現校名)に改称。教育目標は、「自ら考え、行動し、まわりの人と助け合いながら生き生きと生活できるたくましい心と体を養う」。山梨大学教育学部の附属学校として知的障害の子どもたちを支援する。また大学生の教育実習校でもある。

校内にある日常生活訓練施設の「きりの子の家」では、児童生徒ひとりひとりの人間性を尊重し、その可能性を信じ、個性・能力を理解し、個の特性に応じた適切な教育が行われている。



YT



山梨県立宝石美術専門学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

丸の内1丁目16-20 コロリ7・8階

校章は開校当時からのもので富士山とダイヤモンドをモチーフとしている

山梨県立宝石美術専門学校は、日本でジュエリーについて学べる唯一の公立の専修学校。昭和56年4月に甲府市東光寺町開校し、平成22年9月に現在の甲府市丸の内1丁目の複合施設コロリに移転した。

山梨県の地場産業である宝飾産業の人材育成のため設立された学校として、産官学が連携して専門教育を行っている。「産地で学び、産地で働き、また産地で学ぶ」のもと、山梨の宝飾産業の中核的人材として活躍できる学生の育成に力を入れ、また、在校生だけでなく、卒業生やジュエリー産業に働いている方々も幅広く支援している。



クリスマスの時期には、学生のデザインしたクリスマスツリーが岡島デパートに展示を行い地域企業との連携を通して実践的な企画立案を学ぶ企業連携課題などが行われている。

YT



甲府市立甲府商科専門学校

江戸 明治 大正 昭和 平成

西下条町1020

甲府の南にある専門学校。平成3年に開校した全国的に2校しかない公立の商業実務系専門学校。地元では「商専」または「商科」と略称されている

「国際化、情報化社会に対応するため、より高い専門性と豊かな人間性を身につけた、地場企業に貢献できる人材を育成する」を目的に設立されて以来、地元甲府をはじめ県内企業に即戦力となる商業実務専門士を輩出している。またこの時代や社会の要請に応えるべく、常に改善を推し進め、平成28年に文部科学大臣による「職業実践専門課程」の認定を受け、また平成29年には厚生労働省から「専門実践教育訓練講座」として指定され、さらに平成30年度からは同省の「長期高度人材育成コース」を受託するなど、新たなステージでの更なる飛躍を目指しており、公立ならはの低廉な学費で学んでいけるのも魅力の1つである。

実用的な勉強ができ、資格を取ることができるので地元でも認知されている。卒業生も多く、県内でも多く活躍している。



YS



共立高等看護学院・民医連

江戸 明治 大正 昭和 平成

飯田3丁目1-35

全日本民医連に加盟する公益社団法人山梨勤労者医療協会が設置する看護学校

昭和42年、山梨勤労者医療協会准看護学院を開校。昭和50年に共立高等看護学院を開校(2年課程1期生入学)。その後昭和54年に3年課程1期生入学を経て、翌年に2年課程を閉科し3年課程に統一された。

特長として設置母体を同じくする数多くの実習病院、診療所、介護施設をもつ。このことによって学校と実習現場が一体となり、学生実習を実り多いものになっている。卒業後の資格としては、看護師国家試験受験資格、保健師・助産師養護教員の養成機関への受験資格、専門士(看護専門課程)の称号取得、大学への編入試験受験資格がある。



教育理念は「貧富の差によって命の尊さを差別しない患者の立場に立つ看護者を育成する」を掲げる。

YT



専門学校甲府医療秘書学院

江戸 明治 大正 昭和 平成

幸町18-12

医療事務と医学の知識に加え、ビジネスマナーやコンピュータの技術を備え、患者さんの接遇と医師等の秘書業務を担う人材を育成

日本医師会認定校としては県内唯一の医療秘書を養成する2年制専門学校。医療秘書・医療事務・歯科助手の養成を行う創立45年の伝統校で、卒業生は県内外の医療機関で活躍している。キャリアアップを目指すことができる上級コースとして、診療情報管理士専攻コース、医療情報技師専攻コース、ソーシャルワーク併修コースを設置しており、大学病院や国立病院への就職を目指す人、ソーシャルワーカーとしての国家資格と大学卒業資格の取得を目指す人の選択肢となっている。

シンボルマークは、医療秘書=Medical SecretaryのMとSからデザインされている。制服の胸に輝くバッジは、医療秘書を目指す生徒の誇りとなっている。



YT

甲府看護専門学校



江戸 明治 大正 昭和 平成

塩部3丁目1-4

学校法人看護学園が運営する看護師養成のための専門学校。昭和24年開校

教育理念には「やさしさや豊かな感性

を持ち、相手のために何かをしたいという思いやりと、あたたかな微笑みと、おだやかなまなざしをもった豊かな人間性を備えた、看護実践者を育成します。また、少子高齢化が進むなかで地域医療のニーズも多様化し、安全で質の高い医療が求められるなかで、地域に根ざし、地域の人々の健康と福祉に貢献できる看護者の育成します。」と掲示され、年齢の制限なく門戸を開く。

准看護師資格取得を目指す看護学科(2年)、准看護師資格保持者が看護師資格を目指す看護第2学科(2年)、無資格者が看護師資格を目指す看護第1学科(3年)が設置されている。

ホームページ上では学生らに向けて学校図書館の蔵書検索サービス機能が設けられており、有益な情報を迅速に取得できる設備を備えている。



YT

山梨県歯科衛生専門学校



江戸 明治 大正 昭和 平成

大手1丁目4-1

山梨県で唯一の歯科衛生士を育成する専門学校

昭和43年、山梨県歯科衛生士学院として創立され、昭和54年には専修学校に昇格し、校名を現行の山梨県歯科衛生専門学校に改称。昭和56年の2年制を経て平成18年に3年制に移行し、教育内容や施設の充実も図る。卒業生は現在2000名を超え、県下歯科診療所を始め、行政機関や病院施設等で活躍している。また昭和63年から甲府市の姉妹都市でもあるアメリカ合衆国アイオワ州デモイン市にあるデモインコミュニティカレッジと学術研修のための学生交流が行われている。平成29年度に50周年を迎えた。就職率100%の就職実績を誇る。

歯科衛生士としての専門科目の教育課程に加えて、一般教養科目・選択科目として英語や心理学、人間関係論などの基礎教養、さらには接遇作法の選択科目分野といったカリキュラムがある。



YT

山梨県美容専門学校



厚生労働大臣指定・山梨県知事認可

江戸 明治 大正 昭和 平成

緑ヶ丘2丁目13-36

山梨県で唯一の美容師・理容師国家試験を受験できる学校

昭和30年、美容学校設立通信課程を開講し、山梨高等美容学校を設立。翌年に昼間課程、夜間課程を開講。昭和40年に美容会館に移転し、現行の山梨県美容専門学校を開校。設立母体は県下の組合加盟店美容所で、後継者育成を目的としている。美容師・理容師としてのカリキュラムに加え、より実践に役立つための選択科目を設置。また、県下美容室・理容室への実務実習や技術大会、美容まつり等への参加により県下の美容師・理容師との交流を図っている。美・理容室に就職してすぐに役立つ基本的な技術から、ヘアデザイン・アップスタイル・メイク・着付け・ネイルなどのトータルビューティー技術も学べる。

在校生のほとんどは自動車通学。学校の契約駐車場があり、荷物の多い美容学生に優しい配慮がされている。シャンプーやブロー、ヘアアレンジ等の練習ができる実習室は、授業時間以外の放課後も学生に解放されている。



YT

山梨秀峰調理師専門学校



江戸 明治 大正 昭和 平成

中町264

食のスペシャリストを養成する、山梨県で唯一の調理師養成施設校

平成17年開校。厚生労働大臣指定校であり、調理師科(1年制)と専門調理技術科(2年制)の課程がある。専門調理技術科(2年制)の取得可能資格は調理師(国家資格)、専門士(衛生専門課程)、食品技術管理専門士、食育インストラクター等と幅広い。また料理を作る技術だけでなく、飲食店を運営するための経営者としての視点を養うための経営学やマーケティングもカリキュラムにあり、将来独立を目指す者に向けた授業編成。フレンチ・イタリアン・日本料理のジャンルを中心に、各界のトップシェフを招き、間近でその技を見て教わる事が出来るスペシャルな実習授業も行う。専門調理技術科では2年間でおよそ100時間以上が特別実習に充てられている。

リゾートホテルや婚礼会場、懐石料理店、病院など、学生が自分の希望する事業所で行う現場体験実習が行われており、将来のビジョンをより明確にし、必要なスキルを発見する貴重な時間を提供している。



YT

山梨情報専門学校



江戸 明治 大正 昭和 平成

幸町18-12

情報システム科とビジネス実務科で実践力と即戦力、コミュニケーション力をもった人材を育成する専門学校

昭和59年に専門学校ニュービジネス・アカデミーとして創立。情報システム科とビジネス実務科があり、情報システム科は、ICT/IoT業界の幅広い分野で活躍できる即戦力を育成。新しいテクノロジーや知識を楽しく学び、確かな実力を持つIT技術者を目指し、プログラミング実習、アプリ制作、オンラインゲーム制作、アニメーション制作、クラウド開発、チーム開発を履修する。ビジネス実務科は、ビジネス社会で活躍できるITスキルと行動力を持った人材を育成。コンピュータ操作の基礎・応用を学び、業務に活躍できるスキルの習得、実践的なオフィスワーク、およびコミュニケーション能力を身につけ、様々な職種に対応できる能力を培う。

当初はコンピューターが一般には普及しておらず、カリキュラムもコンピューター操作が中心で行われていた。現在のカリキュラムは基本的な操作から商業系アプリケーションの利用、開発などが中心になっている。



YT

山梨県立大学



江戸 明治 大正 昭和 平成

飯田5丁目11-1
池田1丁目6-1

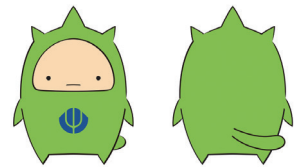
池田キャンパスは昭和28年に山梨県立高等看護学院として開校したが、飯田キャンパスは昭和41年に山梨県立女子短期大学として開学したのがはじまり

飯田キャンパスには国際政策学部・人間福祉学部、池田キャンパスには看護学部・大学院看護学研究科を置く。

グローバルな知。地域と歩む未来指向型の新しい大学を目指す山梨県立大学のシンボルとして、山梨の「Y」とユニバーシティの「U」、更に漢字の「山」により構成。未来へと伸びる三本の線は3つの学部を表現し、上部の丘陵は折り重なる山梨の山並みを表現。地球的な規模で人との交流を図りながら、身近な地域社会で活動し広い視野に立ちながら歩む、本学の理念と目的を表している。

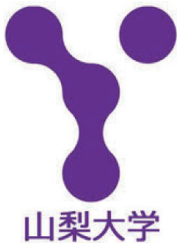
2年次からコース選択をすることになっており、1年次で学びたいことを見つけてゼミ選択を行う。地域マネジメントコースでは地域と密着したフィールドワークを経験することが多いなど、コースによって特色がある。

キャンパスキャラクター「やまちゃん」。独立行政法人化されたのを機に誕生した。チャームポイントは、やまをかたどった頭の小さな三つのツノ、短い手足、お腹の校章、愛嬌のある可愛い顔、嬉しいときは上を向き、寂しいときは下を向く尻尾。



PM

国立大学法人山梨大学



江戸 明治 大正 昭和 平成

本部・甲府キャンパス 武田4丁目4-37
医学部キャンパス 中央市下河東1110

シンボルマークは平成13年に公募により選定、葡萄の房が光に照らされているところを立体的にデザインしたもの。大学略称は梨大(なしだい)

寛政7年(西暦1795年)甲府勤番子弟のための学問所「甲府学問所徴典館」(江戸昌平燾の分校)として設立。変遷を経て昭和24年「山梨大学」として発足、平成14年山梨医科大学と統合され新「山梨大学」が設立され2年後、国立大学法人化された。

シンボルマークの繋がった円は「学問の融合」と、山梨大学が育んだ教育・研究の情報が地域さらには世界に向けて発信され、再び戻ってくるという「循環的な相互関係」を、独立した円は、輝く太陽と新しい山梨大学が希求する理念を表現。葡萄は、古くから生命や知識、そして文化のシンボルとして知られており、太陽の光があたった葡萄は、山梨大学がますます国際社会に貢献していく理想像も重ね合わせられている。

令和2年にはブランドマークも誕生した。同大出身の大村智博士のノーベル医学・生理学賞受賞を記念し大村智記念学術館が作られた。日本の国立大としては珍しいワイン専門研究所「ワイン科学研究センター」を擁する。



YT

甲府をもっと知るための おすすめサイト

制作委員会メンバーおすすめのサイトを集めました！

Homepage

こうふ開府 500 年公式ホームページ : <http://www.kofu500.com/>
甲府市役所公式ホームページ : <https://www.city.kofu.yamanashi.jp>
甲府の暮らし方 : <https://kofu-iju.com/>
富士の国やまなし (やまなし観光推進機構) : <https://www.yamanashi-kankou.jp/>
マチコレ! : <https://machikore.com/>
Porta (ポルタ) : <https://www.porta-y.jp/>
てくてく甲府 : <https://11340blog.com/>
峡陽文庫 : <https://kaz794889.exblog.jp/>
山梨デザインアーカイブ : <https://design-archive.pref.yamanashi.jp/>
山梨デジタルアーカイブ : <http://digi.lib.pref.yamanashi.jp/da/top>
甲斐之庫 : <https://kainokura.blogspot.com/>
山梨の唄 : <http://www.yamanashinouta.com/>

Facebook

こうふ開府 500 年 : <https://www.facebook.com/kofu500/>
甲府市役所 : [https://www.facebook.com/ 甲府市役所 -255428157827015/](https://www.facebook.com/甲府市役所-255428157827015/)
富士の国やまなし観光ページ (やまなし観光推進機構) : <https://www.facebook.com/FujinokuniYamanashi>
マチコレ! : <https://www.facebook.com/machikore>

Instagram

kofu_official (甲府市公式) : https://www.instagram.com/kofu_official/
kofu500 (甲府の写真) : <https://www.instagram.com/kofu500/?hl=ja>
yamanashikankou (やまなし観光推進機構) : <https://www.instagram.com/yamanashikankou/?hl=ja>
machiko_re (マチコレ!) : https://www.instagram.com/machiko_re/
Porta (ポルタ) : <https://www.facebook.com/porta.yamanashi/>

Twitter

武田菱丸【公式】 : https://twitter.com/t_hishimaru
信玄公祭り公式 : <https://twitter.com/ShingenFes>
マチコレ! のマチコ : https://twitter.com/machiko_re
てくてく甲府 : https://twitter.com/xiake_tkkt

(順不同)